

# 『聴き屋の芸術学部祭』

市井豊

初めに……

今回の例会を始めるにあたって何人かの方に非常に迷惑をおかけしました。まずはその事をお詫びたいと思います。本当にごめんなさい。(これから例会を担当する方、バイトのシフトには十二分に気をつけましょう……。)

さて、今回この『聴き屋の芸術学部祭』を選んだのにはいくつか理由があり、

- 1 読みやすく、なおかつ面白い。
- 2 推理部分も斬新さが感じられ、ミステリ的な話をしてミス研のインテリ枠の方々を満足させる事が出来る可能性を十分に秘めている。

などなどいくつか理由はありますが……一番大きな理由はそう、

## 先輩が可愛すぎる！

というくだらなすぎる理由です。(ですから決して、某大学のミス研で新入生向け例会で『氷菓』やったら受けたらしいって話を聞いて、羨ましくなって読みやすいのを選んだわけではありません。)ですので、皆さんも肩の力を抜いて、「それは違うぞ！」と話に突っ込みを入れたり、隣の方とお話をしたりして、気楽に楽しんでくだされば嬉しいです。

## 作者紹介

詳しくは、『聴き屋』の裏表紙に書いてますし、ネットで調べれば情報はある程度手にはいるので、簡単に説明を。1983年生まれって事は、今年で29歳？本名は高井雄一らしい。日本大学芸術学部文芸学科卒で、2008年(当時25歳付近)短編「聴き屋の芸術学部祭」で第5回ミステリーズ！新人賞に佳作入選。選考委員に、綾辻行人、辻真先、そして有栖川有栖がおり、綾辻先生いわく、受賞作「砂漠を走る船の道」(梓崎優『叫びと祈り』収録)がなければ受賞もあつたらしいです。余談ではありますが、『放課後探偵団』という複数の新人さんの短編を収録したもののの中に、市井豊「横槍ワイン」と、梓崎優「スプリング・ハズ・カム」とがあり、現会長が去年それで例会をした際にも、やはり梓崎優さんのものが一足抜けていたと感じた人が多かったように思います。私は少なくともそうでした。今回の課題本は2012年1月30日発行と、割と最近発行されたもので、後書きで続編の存在を明言しているの、今後は楽しみなシリーズです。

## 作品紹介

『聴き屋の芸術学部祭』（2012年1月 東京創元社）

- ・聴き屋の芸術学部祭
- ・からくりツイスカの余命
- ・濡れ衣トワイライト
- ・泥棒たちの挽歌

『放課後探偵団』（2010年11月 東京創元社）

- ・横槍ワイン

……以上かな？ 他にあったらごめんなさい。

## 作品について

### 聴き屋の芸術学部祭

表題作であり、聴き屋の紹介を兼ねた、そして先輩の可愛さを印象付ける作品です。日常の謎には珍しく、普通に死体が出てきます。

- ・彼らの学科の、そして聴き屋の説明から始まる訳だが、罰ゲームで女装で……。
- ・オールアドリブ劇にコスプレ軍団。日本大学もこんな感じなんですかね？
- ・先輩に魔女コスプレとか……似会いすぎてヤバイ。ラスト部分の先輩とか可愛すぎて死ぬるね僕は。

・川瀬君のキャラが強烈すぎる（全編を通してだが）。ほとぼしるエロス！ 三日で書きあげた作品で文学賞！ 川瀬犯人説の動機、反論。すべてが面白すぎる。

この作品は、ミステリ的にもよく出来ていると思います。（結構ネタばれあるので、読んでない人注意！）

・まず、柏木君のアプローチの仕方が面白い。聴き屋であるのに、聴いた話でなく、聴いてない事に焦点を照らす所は流石だと思う。

・火災とスプリンクラーの犯行理由は、普通この手法を用いればセコイように思ってしまうが、犯行理由がしっかりしていて、なおかつ犯行の裏では一つにつながっており、思わず納得してしまう。

・所々にきちんと伏線が張られている。P26～P27、P41の川瀬の発言などは、読み終わった後に思い返せば、何か感慨深い思いにとられるのではないかな。

・ただ安西さん可哀そうすぎる……。動機の意外性って面はあるんだが、それと安西さんのつながりが薄すぎて二重の意味で可哀そう。

### からくりツイスカの余命

物語パートと現実パートがあるため、読者も推理できる形になっている。演劇の台本の

続きを第三者が考えるという形式。まさに日常の謎ですね。

- ・聴き屋故の災難。柏木君ドンマイです。根暗故の災難。先輩マジドンマイです。
- ・今回は月子さん及びザ・ムーンがコメディ一色を出していますね。キャラ強い。みりんはやだな……。他にもやけど……。
- ・今回は聴き屋らしく、先輩や月子さんから聞いた話で推理しています。さらには物語の作者まで懐柔してしまうとは……聴き屋恐るべし！

ここでも無い頭でミステリらしい話をしてみようと思います。この手の話の作りは  
物語の作者→役者などの関係者→（探偵などの第三者）

一般的にはこうなっています（関係者が探偵役をやったりする事もあるわけですが）。ここで、まずどの部分に誰の思惑があるかで物語の様子が違っていきます。この話だと作者→関係者の部分に復讐という目的がある訳ですが、他にも米澤穂信『愚者のエンドロール』や我孫子武丸『探偵映画』（これは今年先輩の例会がありましたね。）など、どこに思惑があるかが違ってきます。まずその部分に焦点を当てれば物語の続きを考える際に考え方が変わると思います。

次に、この手の話には色々制約があります。まず絶対的に主役が目立たなければならない。『探偵映画』でもありましたが、役者というのは自分を少しでも目立たせようとしします。某演劇ギャグ漫画では、セリフが少ない役者が主役役者をなぎ倒して出番を作るという事がありました……役者怖いわ。他にも、月子さんから無茶な要求をされたりして、柏木君ホント可哀そうです。

今回のオチはいわゆる叙述トリックな訳ですが、皆さんこれ解けましたか？私は解けませんでした。まあ確かに言われてみればそうですね……。もう一度読み返してみれば、一応伏線はありますし。後半部で明かされる伏線以外にも、序盤おばあさんの家での人形との会話にも気がつかっていますし、町でははちみつ入りミルクを飲んでいたりします。

### 濡れ衣トワイライト

なんだかな～……。面白いのだが、なんか前置きが粘っこい気がしないでもないです。緻密と言えそうなんだろうが……。

- ・牧野君可哀そう過ぎでしょ。なんか私と同族の匂いがする気がします……。
- ・副会長とネコさんのアクセントがいいですね。おそらく何名かはネコさんが犯人だと勘違いしたんじゃないですかね？
- ・牧野君もギャグ的だが、柏木君の先輩の説明が私的に好きです。

ミステリ的には、伏線の張り方は見事ですし意外性もある。納得はできるんですが……やはり推理が緻密すぎやしないですか？ 外部犯の可能性は、牧野君が最初に排除してもよかったと思うんだ。とはいえまさに聴き屋です。牧野君からの話をネコをなでつつ推理

する所は、ものすごく安楽椅子探偵を連想させます。

### 泥棒たちの挽歌

ザ・フールによる合宿先で見つけた死体についてのミステリなんですが、梅ちゃん、泥棒二人組、川瀬などの印象も強くて、ミステリミステリな感じがしないのがいいです。

- ・ 流れる的に考えて梅ちゃんの出現は至極当然？
- ・ 川瀬君が色んな意味で無双してます。「文句あるか。俺よりかわいい自身のあるやつは前に出る。」はめいげんですよね。
- ・ 携帯の充電が一週間保つって自慢する先輩。めっちゃ可愛いですね。

今回の聴き屋は川瀬君の推理の修正的な存在になってますね。梅ちゃんが聴いたら喜びそうな……。とはいえ聴き屋って感じがします。伏線がちょっとわざとらしすぎて、泥棒がリゾバのグループって事が分かる人には分かったのではないですか？ 全編通して言える事なんですが、今回も容疑者らしい容疑者を特定できずに始まる訳で、これはかなり重大な手掛かりとなります。ただ、彼らの頭脳があれば、ガラスの存在にはすぐ気付くと思うんだ。まあそれに先に気づいちゃったら川瀬君の推理が出にくくなるし、これでよかったんですかね？

### 聴き屋のミステリの意義とは？

円紫さんや小鳩君、折木君など、世の中にはさまざまな種類の日常の謎に関する探偵があり、同時に江神さん、島田潔さん、御手洗潔さんなどの殺人事件などの犯罪に関する探偵もいるわけです。柏木君の場合はどちらともいいにくいように思われますが、はたして、聴き屋というのは、探偵としてどのように役に立っているのだろうか。愚かにも私にも考えはあるわけですが、ここでは皆さんの意見を聞いてから私の意見を述べてみようと思います。

### 終わりに……

皆さんいかがでしたか？ 今年の一回生は、この手のコメディーク調の強いものを好んでいる人が少ないように感じましたので、少しでも気にいって頂ければ嬉しいです。落ち込んでいる時や疲れている時など、殺伐としたものを読まずにこの作品みたいなものを読めば、少しは明日に展望が持てると私は思っています。皆さんも試してみればいかがかな？ と思います。また、最近の中堅～玄人の方の作品が多かったような気がしますので、こういう若い方の作品で例会出来て楽しかったです。終わりまで付き合ってくださいました。本当にありがとうございました。